

# 収蔵品展と資料収集

森 行人

## 博物館における資料収集

博物館にとって、資料の収集は最も根本的な活動です。博物館の活動として、資料収集・保存・調査研究・展示・教育普及の四つがあげられますが、資料がなくては調査研究や展示、教育普及はできません。

博物館の資料収集というと、古文書や美術品のように、人目をひく珍しい品や、歴史的・文化的な価値の定まった優品を集めるというイメージがあると思います。しかし、当館のような地域の歴史博物館では、博物館資料としての価値を、調査研究を通じて発見でき、展示や教育普及を通じて表現できるモノを収集することが基本になります。例えば、使うことがなくなった古い生活道具などをいただく、「これも資料になるの?」と驚かれることがあります。こうしたありふれた日常生活用具も、複数の資料と比較することによって、日常生活の歴史をたどる貴重な博物館資料となります。

資料収集の方法には寄贈や購入などがありますが、地域の暮らしや文化、産業に関わる資料の多くが寄贈を通じて

収集されます。市民からの寄贈資料は、当館のような地域の歴史博物館にとって館の基礎をなすものです。地域の歴史の中で資料を持つ価値を見出し、地域に暮らす人々や博物館利用者がその価値を共有することが、資料収集活動の課題だといえます。

## 平成十九年度収蔵品展「はきもの」展

資料の歴史的価値の共有化という課題への取り組みとして、当館では収蔵品展を毎年開催しています。平成十九年度は「はきもの」みなとまち新潟の下駄文化展と題して、下駄や下駄作りの職人道具を展示しました。

下駄といえは、今はほとんど使われていませんが、昔前まではありふれていた日常生活用品という印象があります。歴史的には下駄の起源は古く、五世紀には使用されていたことがわかっています。しかし、一般に普及したのはそれほど古いことではありません。江戸時代になると、浮世絵など当時の人々の風俗描写に下駄が多く描かれますが、農村部も含め、広く一般に下駄が普及したのは明治中

ろといわれています。

下駄の普及には、原材料や製品の流通、大量生産体制の確立など、商品を大量に生産・販売し得る条件を備えた産地の形成が必要です。新潟はそうした産地の一つで、江戸時代から昭和の初めごろまで、年間百万足を超える下駄を生産していました。

幕末の新潟奉行川村修就が作らせた「あまのてぶり」には、新潟町の人々が下駄履き姿で盆踊りに興じている様子が描かれています。祭礼時とはいえ、多くの民衆が下駄を履くことができたことから、当時の新潟の下駄生産の隆盛ぶりがうかがわれます。

新潟の下駄生産が発展した理由として、後背地に大きな山林があったこと、山林と新潟の間の河川交通を利用して材木を大量に運搬できたことが挙げられます。同時に、日本海交通を通じて製品の販路を確保できたこと、有数の湊町として大きな人口を抱え、生産に要する人手が得られたことも下駄の生産の発展に寄与したと考えられます。下駄の生産は湊町だからこそ発展したといえます。



収蔵品展展示風景

## 価値の共有と活性化

「はきもの」展を開催してまず驚いたのが、かつて下駄を作っていたという方やそのご家族が数多くご来館くださったことです。下駄の生産に多くの人々が関わっていたことを改めて感じました。

大きな目的を込めた企画なのです。

## 新収蔵品展

また、収蔵品展とは別に、新収蔵品展という展覧会を毎年開催しています。平成十九年度は、収蔵品展と新収蔵品展を同時開催しました。新収蔵品展は、過去二年間に市民から寄贈いただいた資料を展示する展覧会です。毎年、当館が収集した資料を広く見ていただくことにより、資料収集活動の具体的な内容を公開し、活動への理解をいただくことを目的としています。実際に収集した資料を見ていただく、自分の家にも同じ物があるという声を寄せられることがあります。博物館と来館者が、その物に資料としての価値を見出し共有できれば、博物館に寄贈されなくとも、所蔵者によって大切な価値あるモノとして地域の歴史資料を次世代に継承することができます。

## 地域の歴史博物館と資料収集

資料を収集し保存するには、人的設備的に相応のコストを要します。自治体にとって、地域の歴史博物館を設置運営するということは、地域の歴史資料を保存することにコストを投入するということを意味しています。

地域の歴史博物館は、地域が主体となつて地域の歴史資料を見出し、共有し、

また、「はきもの」展を観覧いただいた方からは、下駄や下駄に関わる道具の寄贈申込みを多数いただきました。下駄職人の道具は、過去にも寄贈を受けていましたが、新たな寄贈によりコレクションが広がりました。当時の下駄作りに関する情報も何うことができ、「新潟で盛んだった下駄生産」の実像が少しずつわかってきたことも大きな収穫です。当館所蔵の資料にはなかったタイプの下駄を含め、さまざまな種類の下駄も寄贈していただきました。下駄を購入した時や、履いていた時のことなど詳細な話を伺うことができました。

今回、多くの寄贈申込みが寄せられたのは、博物館と来館者間で、「はきもの」展を通じて下駄を地域の歴史資料とし



「あまのてぶり」盆踊りの画(部分)

## 収蔵品展と資料収集

当館の収蔵品展は、新潟の歴史を考える上で興味深いテーマに関して、調査研究がまとまらない段階でも、あえてまとまらない状態のまま、とにかく館蔵資料を覗いていただくことを目的としています。資料を精査し、調査研究を蓄積し、しっかりと展示構成をした上で展示を制作するには、どうしても時間を要します。一方で、博物館が収集保存した資料群には、展示を構成するにはまだ及ばないものの、歴史のおもしろさを伝える魅力的な資料が数多くあります。収蔵品展は展示としては簡素で、展示制作も手作りです。しかし、生の素材ながら魅力的な歴史の断片に触れることを通じて、収集した資料群を地域のユニークな歴史を物語る豊かな脈脈として博物館と来館者が共有することを目指す、ちよつと



寄贈していただいた資料(一部)

後世に伝えるための制度・機関です。資料が有する価値を伝えるには、資料の歴史的・文化的価値を活性化させる営みが必要です。博物館と来館者さらには地域に暮らす人々の間で、この営みの絶えざる輪を広げることではじめて投入したコストに見合うもの、すなわち地域における資料の価値を高め、より多くの人が共有し、活用できるという状況を生み出すことができます。

収蔵品展などの企画を通じて、来館者とともに新潟の歴史を楽しみ、資料の価値を共有し、それを基盤として資料や資料情報を蓄積することが、地域の歴史博物館の使命です。

(もり ゆきひと 学芸員)